

5 秋葉区

5-2 新津第二中学校区（荻川コミュニティ振興協議会）

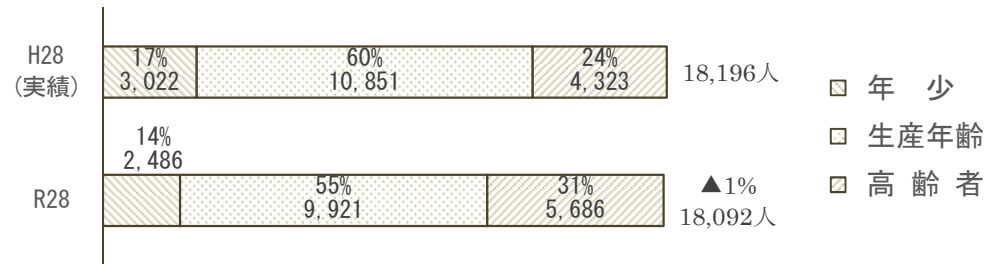
【概要】

① 地域概況、動向

- ・地域内には住宅地が広がり、市街地を形成する人口集中地区となっている。また、JR荻川駅や新津バイパスがあり、交通アクセスに優れた地域となっている。
- ・小学校区2校区で構成され、西部には水田が広がり、田園地帯を形成している。北部の小阿賀野川、東部の能代川に挟まれた地域となっている。

② 将来推計人口【図-1】

- ・人口減少はほぼ横ばいで、少子・高齢化は緩やかに進む地域である。



③ 利用状況、コスト状況及び施設の老朽状況【表-1】

施設種類	施設名	ハード		ソフト		
		老朽化が進んでいる	耐震性に課題がある	コストが高い	利用が少ない・面積が大きい	
		償却率が75%以上か	耐震化率が50%未満か	コスト(※1)が類似施設の平均と比べ高いか	利用率(※2)が該当する類似施設の平均と比べ低い	利用量(※3)が該当する類似施設の平均と比べ大きい
①コミュニティ系施設	荻川コミュニティセンター					
③図書館	荻川地区図書室				●	
⑨幼稚園	市之瀬幼稚園	●				
	結幼稚園	●				
⑪学校教育施設	荻川小学校					
	結小学校					
	新津第二中学校					

※1 コスト評価の指標：純経費/利用者数…①、純経費/貸出図書数…③、純経費/児童数…⑪（小学校）、純経費/園児数…⑨、純経費/生徒数…⑪（中学校）

※2 利用率評価の指標：利用コマ数/利用可能コマ数…①、貸出図書数/蔵書数…③

※3 利用量評価の指標：㎡/児童数…⑪（小学校）、㎡/園児数…⑨、㎡/生徒数…⑪（中学校）

④将来に向けた検討事項

I の考え方を基本に、IIのそれぞれのサービス機能ごとの考え方に基づいて最適化を検討する必要がある。

I 共通の方針に基づく検討事項

- ・誰もが利用できる地域密着施設は将来的に原則1か所を目指しつつ、圏域の広さや施設利用率、人口等を勘案し集約化、複合化を検討する必要がある。
- ・特定目的の施設は誰もが利用できる地域密着施設との集約化、複合化を検討する必要がある。

II 施設種類ごとの配置方針に基づく検討事項

【コミュニティ系施設】

- ・荻川コミュニティセンターは、地域内唯一のコミュニティ系施設であり、地域の活動拠点として機能していることから、今後も本施設を中心とした再編が考えられる。

【図書館】

- ・荻川地区図書室は、配置方針に基づき、予約本受取サービスへの転換や地域移管等を検討する必要がある。

【幼稚園】

- ・市之瀬幼稚園は配置方針に基づき廃止する。

【学校教育施設】

- ・結小学校、荻川小学校は適正規模校であり、新津第二中学校は将来的に適正規模校になることが見込まれるが、配置方針に基づき、施設の効率的な利用を目指し、余裕教室が生じた場合は、教育活動や学校運営に支障のない範囲で利活用を検討する必要がある。

■ 将来推計人口【表-2】(H28.9月末現在の住民基本台帳からの推計)

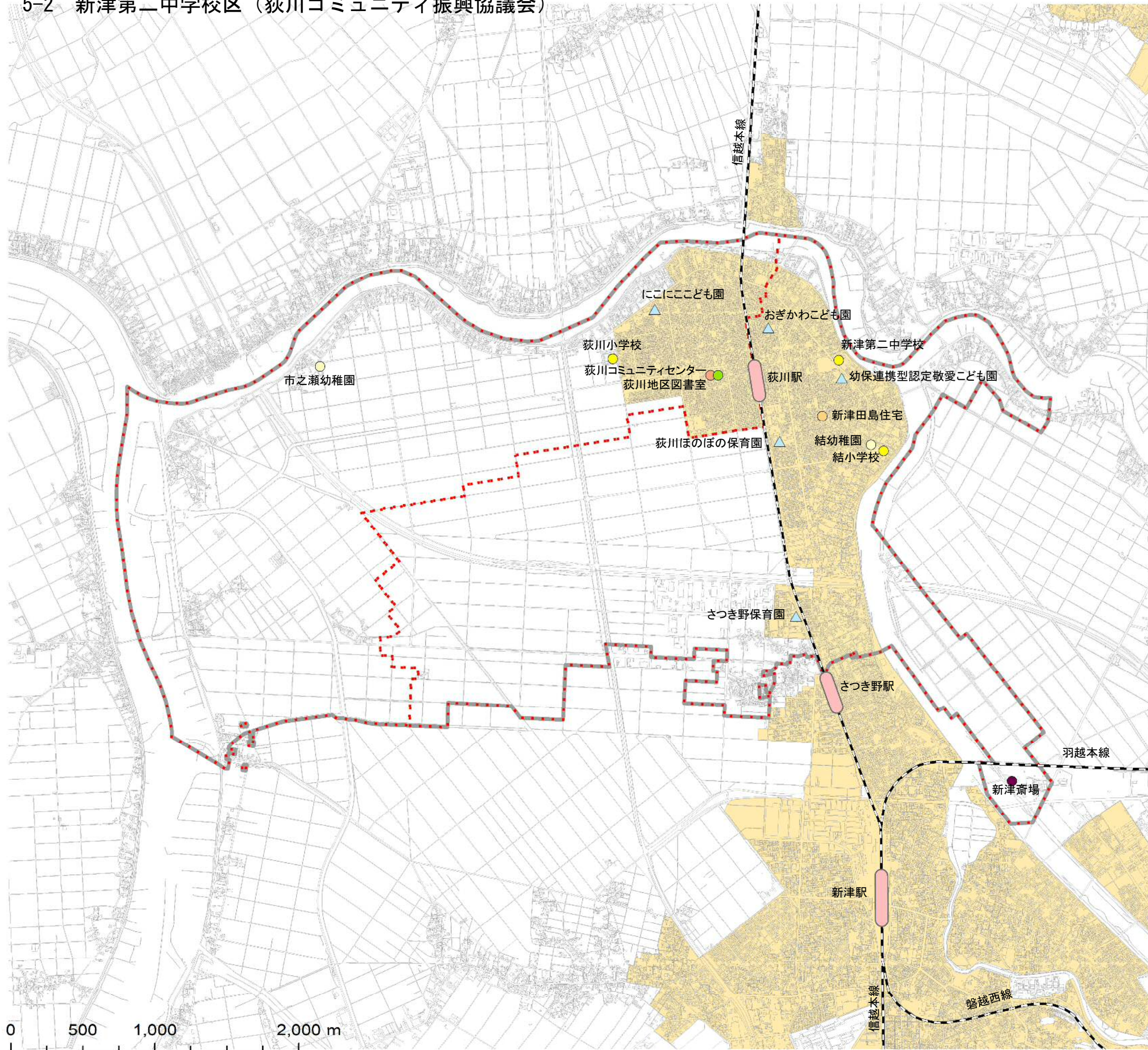
	H28(実績)	R8	R18	R28	増減(増減率)	
地域全体	18,196人	18,358人	18,383人	18,092人	▲104人	▲0.6%
高齢者(65歳以上)	4,323人	4,864人	4,928人	5,686人	1,363人	31.5%
生産年齢(15~64歳)	10,851人	11,082人	11,030人	9,921人	▲930人	▲8.6%
年少(14歳以下)	3,022人	2,412人	2,426人	2,486人	▲536人	▲17.8%

■ 児童生徒・学級数推計(通常学級)【表-3】

校名	R1(実数値)		R7(推計値)		増減	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
結小学校	648	23	590	20	▲58	▲3
荻川小学校	564	19	448	16	▲116	▲3
新津第二中学校	625	19	568	18	▲57	▲1

5 秋葉区

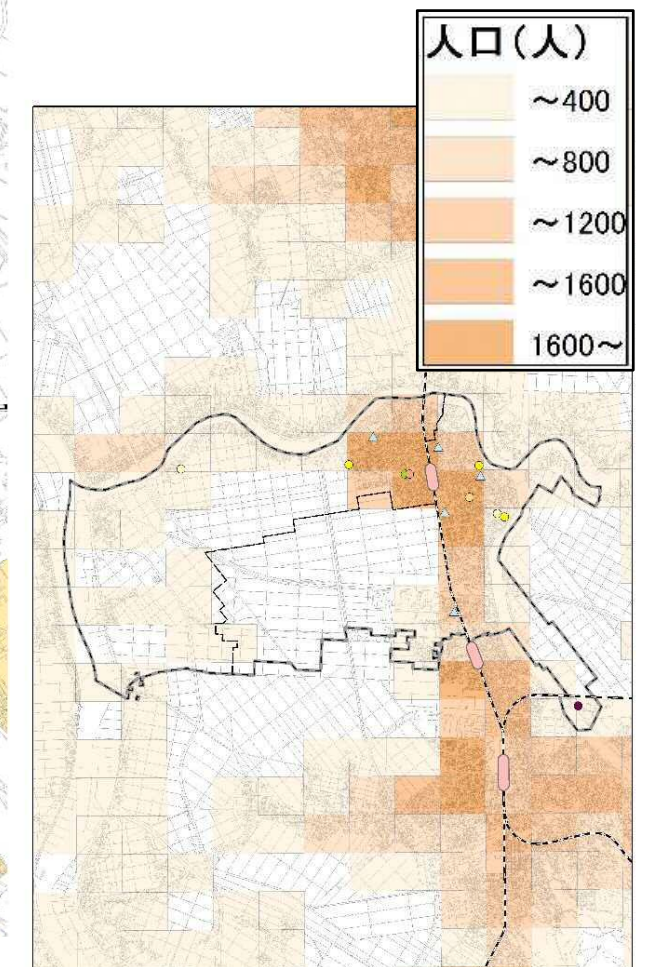
5-2 新津第二中学校区 (荻川コミュニティ振興協議会)



凡例

- コミュニティ系施設
- 図書館
- 幼稚園
- 学校教育施設
- 公営住宅
- 斎場
- ▲ 保育園(民間施設)
- 小学校区
- 中学校区
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

平成27年国勢調査  
人口分布図 (500mメッシュ)



※中学校区線・小学校区線は概図であり、細部については実際の通学区域と異なる場合があります。

5 秋葉区

5-2 新津第二中学校区（荻川コミュニティ振興協議会）

■ 施設一覧【表-4】

施設分類	分析分類 ※1	施設名	施設基本情報							配置情報					コスト・利用情報					分析領域	
			圏域区分	複合施設	建築年	償却率 (%) ※2	耐震化 (%)	想定更新時期 ※3	使用面積 (㎡)	用途地域	コミュニティ協議会	避難所 ※4	危険区域			コスト		利用率・利用量			
													土砂	津波	洪水	実績(全市平均)	偏差値	実績(全市平均)	実績(全市平均)		偏差値
コミュニティ系施設	B	荻川コミュニティセンター	Ⅲ. 地域	1	S58 ~ H15	62	100	R25	2,717.89	一種中高層住居	荻川	○			○	210.0 円/人/回 (928.1)	55.3	43.5 % (26)	-	60.3	1
図書館	D	荻川地区図書室	Ⅲ. 地域	1	S58 ~ H15	62	100	R25	130.18	一種中高層住居	荻川				○	176.0 円/冊 (346.7)	56.2	1.7 倍 (1.9)	-	48.8	2
幼稚園	J	市之瀬幼稚園	Ⅲ. 地域		S33 ~ H25	97	100	H10	507.53		荻川	○			○	81.6 万円/人/年 (120.1)	59.4	11.8 ㎡/人 (20.4)	-	64.1	1
幼稚園	J	結幼稚園	Ⅲ. 地域		S47 ~ H24	91	100	H24	959.65	一種住居	荻川	◇			○	82.4 万円/人/年 (120.1)	59.2	15.7 ㎡/人 (20.4)	-	57.6	1
学校教育施設	H	荻川小学校	Ⅲ. 地域		H22 ~ H23	18	100	R52	7,821.61		荻川	○			○	49.0 万円/人/年 (83.6)	58.0	13.2 ㎡/人 (24.4)	-	57.2	1
学校教育施設	H	結小学校	Ⅲ. 地域		S46 ~ H24	63	100	R21	6,876.71	一種住居	荻川	○			○	44.4 万円/人/年 (83.6)	59.0	9.9 ㎡/人 (24.4)	-	59.4	1
学校教育施設	I	新津第二中学校	Ⅲ. 地域		S56 ~ H26	37	100	R23	8,988.52	一種住居	荻川	○			○	55.0 万円/人/年 (91.6)	59.2	13.6 ㎡/人 (31.3)	-	59.4	1
斎場	-	新津斎場	Ⅱ. 区域		S55	36	100	R22	633.00		荻川				○	-		-	-		
公営住宅	-	新津田島住宅	-		H24 ~ H25	28	100	R34	2,050.98	一種中高層住居	荻川				○	-		-	-		

【記載の条件】 一覧表掲載情報は、令和2年4月1日現在で財産白書の対象施設を掲載しています。また、コスト・利用情報は、令和元年度財産白書別冊から引用しています。

※1 分析分類欄の英字は、施設のコスト、利用を比較する現状分析の分類を表し、「地域別検討資料について」の「表① 用途分類別分析指標と現状分析の分類」から引用しています。

分析分類欄が「空白」の施設は平成30年度以降に新設又は新規調査した施設であり、現状分析の対象とはならないものの参考として施設情報を掲載しています。

※2 償却率は「減価償却累計額/再調達価額×100」により算出しており、財産上の残存価値（耐用年数からの経過）の基準とし建物老朽化の目安としています。

※3 建替え想定時期は、鉄筋コンクリート及び鉄骨造を60年、木造及び軽量鉄骨造を40年と想定して算出しています。

※4 指定避難所を「○」印、補助避難所を「◇」印で表記しています。

■ その他の施設【表-5】

地域内の国県施設	該当なし
地域内の民間類似施設	おぎかわこども園、さつき野保育園、幼保連携型認定敬愛こども園、にこにここども園、荻川ほのぼの保育園